

伊藤利之（監修）

発達障害児のリハビリテーション—運動発達系障害と精神発達系障害

朝貝芳美（信濃医療福祉センター）

少子化，周産期医療の進歩や自立支援法の制定など社会情勢の変化により，障害児をとりまく環境は大きく変化してきています。障害児療育は障害の重度重複化，多様化，発達障害児の増加，被虐待児など家族関係の崩壊や核家族化を背景とした育児能力の低下など多くの課題を抱えており，障害児療育に係るものは時代の流れを敏感に察知し，対応することが求められています。近年，子育てを支援する社会のセーフティネットとしての療育の役割はますます重要となっていてきており，それぞれの地域で地域の特長を生かした療育が実践されてきています。

そのようななかで，早くから障害種別を越えた地域療育を実践し，近年の発達障害児の増加に対して横浜市の地域療育の中心となって先進的な療育を実践してきた横浜リハビリテーション事業団スタッフの方々が，20年間培ってきた療育技術の集大成として，療育の現場で役立つように具体的にまとめ上げたのが本書「発達障害児のリハビリテーション」と

言えましょう。

従来，障害児療育に関する書物は個人的な見解や方法に基づいて書かれる傾向があり，教科書としてまとめることが困難で，標準的な内容としてまとめたものは少ない状況でした。そのなかで長年の地域としての取り組みをまとめあげた著者らに敬意を表すとともに，障害児療育に興味をもつ読者には障害児療育全般の理解を深める教科書として，障害児療育に係っている皆さんには実践に役立つ参考書として推薦させていただきます。

地域に点在する社会資源との連携を強化し成果をあげてきた横浜リハビリテーション事業団の取り組みが，日本各地域それぞれの特長を生かした療育システムを構築する際の参考となるとともに，本書の出版の努力が障害児療育の発展につながるものと確信しています。

（B5判 330頁 定価 6,000円＋税 2008 永井書店）